

《巻頭言》

時代の流れ，ニーズに合わせて変化する柔軟さを

臨床心理士 亀井 由紀子

「ネウボラ」ということばがあちこちで聞かれるようになりました。ニュースや紙面では、その地域ならではのネウボラへの取り組みが紹介されており、関心の高さが伺えます。

ネウボラとは、「フィンランド語でアドバイス（neu Vo）の場（la）という意味で、母親や子どもをはじめとした家族全体の心身の健康を支援するフィンランドの子育て支援の取り組み」（広島県 HP より引用）のことです。東広島市でもその取り組みは始まっており、妊娠期から子育て期までの切れ目のないサービスをワンストップで提供するため、身近な相談拠点の設置や仕組みづくりが進められています。意を決してわざわざ「相談」という名のつく所に行かなくても、身近な地域や通い慣れた支援センターで気軽に相談ができるのは、それでなくても家事に育児に仕事に忙しい子育て世代にはとても心強い仕組みではないでしょうか。

さて、この仕組みを、視点を変えて支援者側から見ると、一つのキーワードが浮かびます。「連携」です。切れ目のないサービスをワンストップで提供するためには、行政との連携を中心に、子育て支援センター同士の横のつながりや、他の地域資源を知ること、遊びにきてくれた親子さんを適切な所に紹介できるスキルが必要です。

ゆめもくばの長い歴史の中で、これまでも様々な事業が展開されてきました。それは、その時々親子を取り巻く現状やニーズに合わせた活気あふれるものばかりです。きっと、たくさんの親子さんが楽しみ、助けられたことでしょう。しかし、ネウボラのが考え方が広まりつつある今、ゆめもくばの中の事業を充実させるだけでは不十分です。やはり一つの NPO でできることは限られます。だからこそ「連携」をキーワードにこれまで以上に横のつながりを作り、必要な親子に、その時々に必要な支援ができるゆめもくばであってほしいと思っています。

ゆめもくばの内面が充実、安定してきた今、次は外に目を向け、地域全体で親子を支えていける、そんな場にゆめもくばがステップアップしていくことを期待しています。